

保護者の皆様

## 平成31年度全国学力・学習状況調査の結果(御浜町)と今後の取組

御浜町教育委員会

平成31年4月18日(木)に実施しました「平成31年度全国学力・学習状況調査」(以下「全国学調」)における結果の概要は以下の通りです。

### 1. 調査結果概要

#### (1)調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況を改善等に役立てる。
- ③上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### (2)調査実施日

- ・平成31年4月18日(木)

#### (3)調査対象(御浜町)

- ・小学校第6学年の児童83人、中学校第3学年の生徒63人

#### (4)実施内容

- ①教科に関する調査
  - ・小学校6年生:国語、算数
  - ・中学校3年生:国語、数学、英語
- ②生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査・学校に対する調査

### 2. 教科に関する調査結果の概要

平成31年度の結果は、小学校では国語で全国平均を下回る結果となりましたが、算数は全国平均を上回りました。国語については、これまでも御浜町児童の課題として取り組みを進めてきており、下回る結果とはいえその差は縮まっています。算数については、全国平均・県平均とも上回り、昨年度からの改善がみられました。今後さらなる改善に向けて、来年度から施行される新学習指導要領の柱である『主体的・対話的で深い学び』を充実させるべく、「授業力向上支援事業」として町全体で取り組んでいるペア学習やグループ学習による取組を進め、「知識」「活用」の両面から課題改善に向けた取組を進めます。

中学校については、数学で全国平均を上回る結果となり、昨年度課題としていた理数系の問題に対しての課題克服が一定の成果を見ました。国語・英語については、全国平均を若干下回る結果となりましたが平均正答数では0.5ポイントの差もなく、全国・県との差はほとんどないといえます。今後は、学習したことを自分の実力として十分に発揮できるような課題解決・解答能力を育成していきます。

全体を通じて、小学校、中学校とも「読むこと」「聞くこと」「話すこと」による学力の定着が図られていることが見て取れます。しかし、「書くこと」の学力の定着や向上が今一步という感があり、今後、授業の中で「書くこと」の指導をしっかりと取り入れていく必要があります。

#### (1) 小学校

- ①国語については、「情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫をとらえることができる」の正答率が比較的高かった一方で、「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができる」といった指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことに課題がみられました。また、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」の正答率も低い結果となりました。ペア学習・グループ学習において議論し、考えをまとめることはできていますが、調査やテスト等で考えを言語化し、きちんと「書く」ことに課題が残りました。
- ②算数では、「四則の混合した整数と小数の計算をすること」や「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することができる」について、全国平均を大きく上回り、基礎・基本的な「四則演算」、「計算のきまり」についてしっかりと定着していることが伺えます。しかし、「複数の資料や傾向を関連付けることで見いだすことができる事柄から、数量の大小を判断して、その判断の理由を説明すること」「除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述すること」といった問題の正答率が低く、記述式問題（書くこと）に課題があります。

#### (2) 中学校

- ①国語については、「話合いの話題や方向を捉えることができる」「語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解すること」といった「話す・聞く能力」に関係する問題の正答率が全国平均より高い結果となりました。これは、御浜町が進めるペア・グループ学習における「主体的・対話的で深い学び」の成果と考えられます。一方で、「封筒の書き方を理解して書くこと」の正答率が低く、無回答率も唯一高い結果が見られます。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解し、楷書で書く」ことに課題があります。
- ②数学については、『関数』『資料の活用』領域の正答率が、県・全国を上回りました。とくに「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈すること」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」に関する問題は、全国平均よりも大きく上回り、数学的に表現したことや数学的な結果を事象に即して解釈することができています。しかし、「四則計算の結果の特徴を的確に捉えること」「数の集合と四則計算の可能性について理解していること」について全国平均を大きく下回りました。数の集合と四則計算の可能性について理解することは、数の概念の理解を深めるために必要なことであり、そこに課題がみられます。
- ③英語については、「日常的な話題について、簡単な分で書かれたものの内容を正確に読み取ること」「まとまりのある文書を読んで、説明文の大切な部分を理解すること」といった『読むこと』に関する問題の正答率が全国平均より高い結果となりました。一方で「まと

まりのある英語を聞いて話の概要を理解すること」「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ること」といった『聞くこと』、「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くこと」「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くこと」といった『書くこと』に関する問題に課題がみられました。

(3) 教科に関する調査の平均正答率

	国語	算数
御浜町	61%	69%
三重県	64%	67%
全 国	63.8%	66.6%

	国語	数学	英語
御浜町	71%	60%	55%
三重県	72%	60%	56%
全 国	72.8%	59.8%	56.0%

※全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）（平成29年3月29日付文科省）に「序列化や過度な競争を招かないよう、都道府県・指定都市の一覧での公表は整数値で行う」とされ、一昨年度より市町教育委員会、三重県の正答率は整数値で通知を受けています。

### 3. 生活習慣や学習習慣等についての調査結果

(1) 小学校児童質問紙調査より

「している」「どちらかといえばしている」と回答（肯定的回答）した割合

○回答の割合が全国平均を10P以上、上回っている項目

質 問 事 項	御浜町	全国
学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか	97.6 %	84.1 %
今住んでいる地域の行事に参加していますか	79.5 %	68.0 %

○昨年度の全国平均の差から10P以上改善された項目

質 問 事 項	H31	H30
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	+6.6 %	-4.7 %

●回答の割合が全国平均を10P以上下回っている項目

質 問 事 項	御浜町	全国
解答時間は十分でしたか（国語）	62.6 %	74.2 %
解答時間は十分でしたか（算数）	73.5 %	84.0 %

●昨年度の全国平均の差から 10P 以上下がった項目

質 問 事 項	H31	H30
自分には、よいところがあると思う	-0.5 %	+10.4 %
算数の勉強は好きだ	-2.3 %	+8.2 %

(2)中学校生徒質問紙調査より

「している」「どちらかといえばしている」と回答（肯定的回答）した割合

○回答の割合が全国平均を 10P 以上、上回っている項目

質 問 事 項	御浜町	全国
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	100 %	84.6 %
数学の勉強は大切だと思いますか	95.3 %	84.2 %
数学の授業の内容はよく分かりますか	84.2 %	73.9 %
英語の授業はよく分かりますか	81.0 %	66.0 %

○昨年度の全国平均の差から 5 ポイント以上改善された項目

質 問 事 項	H31	H30
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	+4.5 %	-1.3 %
今住んでいる地域の行事に参加している	+1.8 %	-5.6 %

●回答の割合が全国平均を 10P 以上、下回っている項目

質 問 事 項	御浜町	全国
自分には、よいところがあると思いますか	58.7 %	74.1 %
将来の夢や目標を持っていますか	52.4 %	70.5 %
1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	57.1 %	77.2 %
解答時間は十分でしたか（数学）	74.6 %	84.7 %
解答時間は十分でしたか（英語）	47.6 %	63.0 %

●昨年度の全国平均の差から、10P 以上下がった項目

質 問 事 項	H31	H30
自分には、よいところがあると思いますか	-15.4 %	-5.4 %
将来の夢や目標を持っていますか	-18.1 %	-0.4 %
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	-5.0 %	+7.5 %
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	±0.0 %	+11.1 %

#### 4. 考察 【 】は全国平均値

児童生徒質問紙調査結果より、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について、『1時間以上』と答えた小学生が53.0%【66.1%】、中学生が52.3%【69.8%】で全国平均との差は、小学生が-13.1ポイント、中学生が-17.5ポイントと差が大きい結果が見えます。しかし、中学生については、昨年度の全国平均との差を-32.0ポイントから-17.5ポイントと大きく改善されている一方、小学生は-5.0ポイントから-13.1ポイントと差が広がり課題を残しました。

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」について、小学生は全国や県平均と比べると『1時間以上』読書をしている割合は低いですが、昨年度に比べると改善の傾向がみられます。しかし、『全くしない』という人の割合も低く、このことから、普段の日は短時間ではあるが、読書をしている児童が多く（『1時間まで』の読書割合が最も高い）、本を読む習慣が身につけてきているのではないかと考えられます。とくに、『1時間以上、2時間未満』の割合が増加している一方で『10分以上30分未満』の割合が減少していることから、集中して読書をする傾向にあると考えられます。

中学生では、『1時間以上2時間未満』の読書をしている割合が全国や県より若干高く、『1時間まで』の読書割合も高い。『全くしない』という割合について、昨年度の22.7%から23.8%と若干高くなっているが、県・全国平均に比べるとかなり低く、少しでも読書をしようとする傾向が御浜町の中学生にはあると考えられます（県：38.7%、全国34.8%）。とくに、昨年度と比べると『30分以上2時間未満』の読書率の増加は顕著です（20%→30.1%）。

「読書は好きですか」の問いについては、小中学生ともに肯定的な回答が県・全国平均よりも高く、とくに小学生については全国平均を大きく上回ります。また、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」について、小学生は『週1～3回程行く』という割合が県・全国平均の約2倍高く、中学生については『週に4回以上』『週に1～3回』『月に1回』の割合がかなり高くなっています。このことから読書に興味を持ち、「読書をする事」が家庭生活において身近なものになってきていると考えられます。

小学生も中学生も共に解答時間が不十分（足りない）と感じている割合が高く、解く速さを含め、調査時間の使い方について改善を図る必要があります。（全国平均との差：小学生+12.5ポイント、中学生+10.2ポイント）

「自分にはよいところがあると思いますか」といった質問に対し、小学生は肯定的な回答が80.7%あり、全国平均81.2%と比べても殆ど差はありませんでした。このことにより、小学生に関しては自己肯定感や自己有用感がほぼ身につけていることがわかります。しかし、一方で中学生は58.7%しかなく、全国平均の74.1%に対して-15.4ポイントという結果となっており、中学生の自己肯定感や自己有用感の低さが目に付きます。授業を中心とした学校生活全般において、自分自身に自信が持てるような指導を推進し、自己肯定感、自尊感情、自己有用感を涵養する取り組みを推進します。

学校質問紙調査結果より、近隣等の小学校と「教育課程に関する共通の取組を行う」、「合同の研修を行う」、「全国学力・学習状況調査の分析結果について、成果や課題を共有する」といった小中の連携や、「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放

課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか」といった家庭や地域との連携についての質問事項が合わせて8項目ある中で、町内すべての学校で肯定的な回答（100%）をした項目は3項目ありました。このことより、授業公開等を活用した小中連携を積極的に進めるとともに、学校運営協議会を活用した保護者・地域とのつながりを大切にした取組をさらに進め、地域とともにある学校づくりに努めていきます。

## 5. 今後の取組・改善方策

### 御浜町教育委員会

- 【1】「御浜町授業力向上支援事業」により、大学教授等の外部講師を招聘した授業研究を行い教員の授業力向上を推進します。
- 【2】各学校での校内研修等へ指導主事等を派遣し、指導方法の改善を進めます。また、タブレット等の情報通信機器を活用し、授業改善に努めます。
- 【3】全国学力・学習状況調査の結果から課題を克服するため、県の授業改善サイクル支援ネットを活用したワークシートを授業や家庭学習で活用できるように支援します。
- 【4】三重県教育委員会が実施する「みえスタディ・チェック」に全校で取り組み、授業改善につなげます。
- 【5】「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣等チェックシートを活用した集中取組の実施や、「家庭読書の日」（毎月第3日曜日）を周知するとともに、学校図書の充実を図り、学校・家庭と連携した読書活動を推進します。
- 【6】全校をコミュニティ・スクールとし、学校運営協議会と協働して地域人材を学校教育や授業に活用し、地域とともに子どもの学力の向上に取り組みます。

### 各小中学校

各校独自に調査結果を分析し、課題や成果を明らかにした上で、全教職員がその課題を共有し、学校をあげて改善に向けた具体的な取組を行っていきます。また、それぞれの学校の結果や分析については、後日、各校より保護者の皆様に報告します。